

平成29年（2017年）散策会

平成29年11月11日（土）、平成29年度の散策会が滋賀県近江八幡で行われました。

近江八幡は、豊臣秀吉の甥である豊臣秀次が築いた城（天正13年 1585年）を中心とした町で、その3年前に消失した織田信長の安土城城下から多くの商人が移住し、大商業都市となりました。

江戸時代に入ると、近江八幡は幕府直轄の天領となり、城下の商人は幕府の通行手形を持ち、全国を商いして回りました。これが近江商人の中核をなす八幡商人の誕生で、街並みには当時の面影が色濃く残っています。（ガイドマップより）

今回は、近江八幡市在住のボランティアガイドの松本博さん（昭50年卒業 色染物質会会員）に案内いただき、午前中に、新町通り→八幡堀新町浜→ヴォーリズ像、西川邸→八幡堀石畳→白雲館→日牟礼八幡宮を散策しました。

松本さんの説明は、その歴史・文化についての奥深いもので、ガイドブックでは得られない知識と満足感のあるものでした。

昼食は、「久ぼ多屋」で近江牛と少しのアルコールを堪能し、午後は船で一時間半の水郷めぐりを楽しみました。（水郷めぐりは桜の時期が最高とのことでした）

当日の天気予報は前日の雨が回復に向かうとのことでしたが、晴れたと思うと急に雨が降り出す等、不安定な天気でした。しかし、雨の時は室内や船内だったため、結局傘は差さずにおわり、運も味方に付けた一日でした。

（色染48年卒 犬伏康郎）



前列左より 角野、佐藤、中東
後列左より 高木、犬伏、松本、後藤、小林